

一 解答

問一	A いないでおこう C 見たこと（会ったこと）のある人	B 知っている人 D もしたとえるなら	
問二	います	問三 静岡県	問四 着（著）
問五	人、その人	問六	序詞（句切れなし）
問七	夏の最も暑い時期		
問八	季節を知らない山は富士山だ。いったい今をいつだと思って、「鹿子まだら」に雪が降り積もっているのだろうか。		
問九	京		
問十	(1) もんぜん (2) 与 <sub>レ</sub> 君生別離（君と生きながら別離す） (3) 本文は男（夫）の側の都に残してきた妻への思いのみが語られているが、この句を想起すると、妻もまた都で夫を思っていることがわかり、双方の生き別れの悲哀が伝わってくる。		
問十一	ジャンル名 歌物語	主人公の姓名 在原業平	

## 二 解答

問一 傍線部①～⑤の漢字の読み方をひらがな現代假名遣いで記しなさい。

① ( ここ ) ② ( かよう ) ③ ( くしゃみ ) ④ ( こんとん ) ⑤ ( はんもん )

問二 傍線部 a～d のカタカナを漢字 (新字体) に直しなさい。

a ( 賭 ) b ( 満遍・万遍 ) c ( 紛 ) d ( 墜落 )

問三 傍線部ア～オの漢字の旧字体を新字体に直しなさい。

ア ( 対 ) イ ( 国 ) ウ ( 体 ) エ ( 区 ) オ ( 恋 )

問四 傍線部甲・乙の読み方 (ひらがな現代假名遣い) と意味を記しなさい。

甲 読み ( ひっきょう ) 意味 ( 結局、つまるところ )

乙 読み ( こうとうむけい ) 意味 ( 言動に根拠がなく、現実味のないこと )

問五 傍線部X「この親切な下の句は、結局芭蕉の名句を殺し、愚かな無意味なものとするほかには何の役にも立っていない」とありますが、なぜですか。「純粋な言葉」と「説明」という対比に触れて、その理由を説明しなさい。

芭蕉の句は、読者の感性に直接働きかけ、現実以上の高揚を生む「純粋な言葉」である。対して、下の句は感情や季節を過剰に「説明」してしまう。この過剰な親切さが、読者が自ら感銘に到達する余地を奪い、理屈を超えた句の芸術的生命を殺してしまうため。

問六 傍線部Y「妖精」「愛すべき怪物」「王様」とありますが、筆者がこのようにファルスを語るのはなぜですか。それぞれの比喩が持つニュアンスを個別に分析し、それらによって示されるファルスの本質について説明しなさい。

「妖精」のように人間の観念に宿り、「愛すべき怪物」として混沌とした魅力を併せ持ち、「王様」としてその矛盾の世界に君臨するというように、ファルスが単なる概念ではなく、生命感と矛盾を宿した力であることを示すため。

問七 傍線部Z「ファルスとは、人間の全てを、全的に、一つ残さず肯定しようとするものである」とありますが、どういうことですか。悲劇や喜劇がそれぞれ武人と親父の一戦を取り扱う方法との違いを明確にしなしながら、説明しなさい。

武人と親父の一戦を、悲劇が煩悶、喜劇が諷刺として意味付けようとするのに対し、ファルスは、矛盾を解決も解釈もせず丸ごと肯定する。これは、どうしようもない混沌が持つエネルギーを「爆発的な乱痴気騒ぎ」へと転化させ、意味付けそのものから解放するということである。

問八 次のA～Fの中には、坂口安吾の作品が二つ含まれています。それらを選び、かつこの中に記号で答えなさい。

( B ・ F )  
A 桜の樹の下には B 墜落論 C 斜陽 D 地獄変 E 山椒魚 F 白痴

三 解答例

一 次の問い①～④の中から一つを選択し、具体例を挙げつつ、わかりやすく説明しなさい。

- ① 江戸時代の日本語を知るためにはどのような資料を調べればよいか。
- ② 日本語において、漢語はどのように用いられてきたか。
- ③ 現代日本語の助動詞「た」はどのような意味を持つか。
- ④ 日本語の音韻体系はどのように変化してきたか。

選んだ問題番号 ( ) \*例えば以下のような書き出しで、具体例を増補、詳説する。

- ① 湯沢幸吉郎氏の『徳川時代言語の研究』などによって概略を知ることができる。さらに詳しく見てゆけば、たとえば江戸時代前期であれば、四つ仮名が混同されていたことが『蜷縮涼鼓集』からわかるし、関東方言の資料として『雑兵物語』を挙げるができる。……
- ② 日本語において、漢語は上代から用いられ、時代を下るにしたがって語数も使用頻度も増加してきた。和歌は漢語を用いないことを原則とするが、上代の『萬葉集』に「過書」や「婆羅門」が、中古の『古今和歌集』に「桔梗(きちかう)」などが物名歌で詠まれており、古代においても漢語があるていど浸透していた。……
- ③ 現代日本語の「た」は完了を基本的な意味として持つ。ただ、完了といってもその意味の幅は広い。「昨日、山に登った。」は過去を表すが、「年来の宿願を果たし、今こうして山に登った。」は動作の完了を意味し、「さあ、登った、登った。」と命令を表す場合もある。……
- ④ 上代においては、キヒミケヘメコソトノヨロモ(モは古事記のみ)に甲乙の二種類の音があった。これを上代特殊仮名遣いという。音の違いは母音の違いとされることが多いが、異説もある。中古になると、ごく初期にコに区別の残存が見られるが、以降は完全に失われた。平安前期まではア行の「エ」とヤ行の「エ」の区別もあったことが「あめつち」などから知られる。……

二 次の条件に従って以下の短歌を品詞分解しなさい。

- ・品詞名を記すこと。
- ・活用語には「終止形」活用形も記すこと。
- ・用言には活用の種類も記すこと。
- ・助動詞には意味も記すこと。
- ・助詞は「副助詞」のように助詞の種類とともに記すこと。

例 名詞 今 / 係助詞 は / 名詞 昔、 / 名詞 竹取 / 格助詞 の / 名詞 翁 / 格助詞 と / 動詞・ハ行四段「いふ」連体形 いふ / 名詞 者 / 動詞・ラ変「あり」連用形 あり / 助動詞・過去・「けり」終止形 けり。

\*「おしてる」は「おし(動詞・サ行四段「おす」連用形/てる(動詞・ラ行四段「てる」連体形))も可。「かも」は係助詞も可、「か(係助詞)/も(係助詞)」も可。

名詞 かすがの / 格助詞 に / 動詞・ラ行四段「おしてる」連体形 おしてる / 名詞 つき / 格助詞 の / 形容動詞・ナリ活用「ほがらかなり」連用形 ほがらかに /

名詞 あき / 格助詞 の / 名詞 ゆふべ / 格助詞 と / 動詞・ラ行四段「なる」連用形 なり / 助動詞・完了「ぬ」連用形 に / 助動詞・詠嘆「けり」連体形 ける / 終助詞 かも

(会津八一『鹿鳴集』南京新唱)